

痛みに対する鍼治療

直流電気鍼と挫刺法（ざしほう）

菊田はりきゅう院 菊田 義美

挫刺針法（挫刺法）とは、昭和 29 年、長野県の塩沢幸吉先生が考案・報告した技法で、治効力が高いわりにはあまり知られていない。

挫刺法について、創設者の塩沢先生は「挫刺に適する特殊な鍼を使用して、表皮・真皮および皮下組織の一部を極めてミクロな状況下において刺切し、挫滅することによって、固有の刺激を発現せしめ、生体の機能変調を調整し、もって個体を正常に導くことを目的とする療法である」と定義している。

「図説・挫刺針法」（角田章著）によると、挫刺法は、特殊な鍼を使用する「一般挫刺法」と、豪鍼を使用して行うことのできる簡易挫刺法の「副挫刺法（捻挫法）」に大別される。

今回は、最初に挫刺法の概要を紹介し、続いて簡易挫刺法に直流電気鍼を組み合わせることで、治療時の痛みを軽減でき、治療効果が高い治療方法の実技供覧を行う。